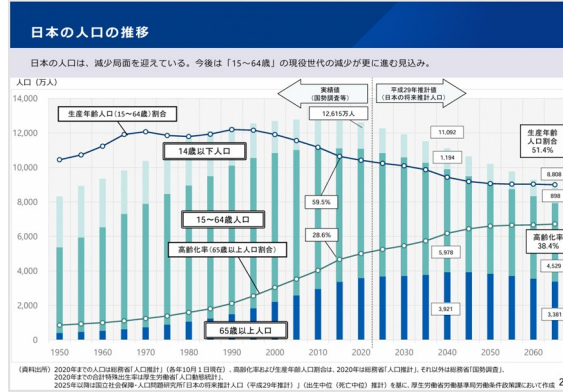


ATTENTION

これからの日本の先行きがよく見える。このままでいいのか？



このグラフ(グラフは小さいため、拡大機能の+タブをお使いください)は、昨年11月に作成された「新しい時代の働き方」(厚生労働省作成)の冒頭に掲載されたグラフです。2015年の生産年齢(15～64歳)人口の全人口に占める割合は59.5%。それが2065年には51.4%に、8.1%減る一方で、2015年の高齢層(65歳～)の全人口に占める割合は28.6%。それが2065年には38.4%に、9.8%も増える見通しです。その間の全人口の減少率はなんと30%。全体のパイが減る中で、生産年齢層の人口は、その間7,500万人から4,500万人に減る見通しです。人口を維持するには、合計特殊出生率は2.06でなければならないのに、現在は1.20。ちなみに、米国の直近は1.62。これでも問題とされている中で、日本の状況は危機的状況です。人口減少下では、労働生産性を上げなければGDPが伸びない中で、その生産性も、日本はOECD加盟38か国で31位、G7の中では最下位という有様。労働力×生産性=GDP成長率の構成要素の両方が伸びないとすると、掛け算で衰退していくということになります。人口は最も先が見えやすいという中で、手をこまねいているのが現状ですが、なんとか、この流れを止めようとする努力が、現在を生きる我々に求められているのです。そのためには、日本をリバイタライズ(再活性化)する勇気を持たなければなりません。既得権益にしがみついた輩を払いのけ、大胆な規制撤廃、構造改革を断行しないと、まさに、延々と続けてきた「茹で蛙」状態がさらに続くこととなります。これを打開することは、いまの若い世代やこれから生まれてくる世代へのわれわれの責任といえます。

COLUMN 仕事を時間管理して、しっかりと行う方法

日常の仕事をするうえで、大変有効なスキルが書かれた書がありましたので、紹介しましょう。一つ一つの仕事をきっちりとこなす。その名も「タイムボクシング」。要は、時間を区切って、その間きっちり集中してやるということです。日々の仕事は、次から次にきて、少し手を付けては、他のことをやる、やったことすべてが不十分、一日たってみると、達成感はなく、ストレスが残るだけということよくあります。これを避ける方法が書かれています、そのやり方は、1日の時間を区切って、それぞれそこで何を行うかを決めて、その時間の中で絶対に終わらせるというものです。ここがカギで、先延ばしたり、詳細を加えたり、完璧を目指すというようなことをしないで、ほぼ満足できるレベルでも、とにかく終わらせるというものです。まずは、その日の始めに、やるべきことを決め、そのつながら、順序付けまで考えて、それぞれに従事する時間も入れたTo-do(やるべきこと)リストを作る。さらに休息の間に何をするかを考えます。そこでエネルギーの再補給の時間をつくるわけです。こうすれば、一日がずいぶんメリハリの利いたものになります。

この方法は、他にも多くの恩恵があり、生産性を上げ、協働を強め、人間力を強化するというのです。また大きな仕事をステージに分け、効果的に振り分けるのにも役に立つとのこと。意図的に段階を踏んで動けるというわけです。また重ねて仕事をしてしまう非効率を防ぎ、生産性を上げられるとのこと。すぐにも試せる方法です。

出典：Time Boxing, The Power of Doing One Thing at a Time

MARKET

	(10月末)	(9月末比)
日経平均	39,081.25円	+1,161.70円 (+3.06%)
NYダウ	42,330.15ドル	-566.69ドル (-1.34%)
米ドル	152.05円	+8.40円 (+5.85%)

私の書棚より

人を知る者は智なり、(それよりも)自ら知る者は明なり。人に勝つ者は力有り、(それよりも)自ら勝つ者は強し。足るを知る者は富み、強めて行う者は志有り。(しかし)其の所を失わざる者は久し、死して失なわざる者は寿し(いのちながし)

-老子 三十三章

政治家や官僚が掲げるアドバルーンにだまされるな！

政治家が掲げるテーマは、いつもアドバルーンのように聞こえて仕方ありません。「資産運用立国」、一言で言って「おこがましい」という感があります。振り返れば、1996年橋本政権の時、金融ビッグバンといって、大々的にぶち上げましたが、何かあったのでしょうか。その後は、長銀がつぶれ、山一が廃業、ITバブル崩壊、2000年代の10年、日経平均は下がりました。1990年代前半に株の持ち合いはピークになり、いまだに株の持ち合いの解消問題は続いています。その間30年。これまでの日本の資産運用、金融の世界を見ますと、なんら進展はなく、後戻り感まで感じます。

「資産運用立国」-ずうずうしいにも程がある

そこに来て「資産運用立国」。政治家が言うことですから、当てにはしていませんが、これまでの経緯を知って、言っているとはとても思えません。そして今度は、自分がやるという、華々しくやるのですから、あきれるばかりです。唱えた首相はさっさと退陣。こういうことに、何回も付き合わされる国民はたまったものではありません。

官僚や政治家は、自分がやった跡を残したい

政治家も官僚は、何か自分がやったこととして、跡を残したいという本能が働くのでしょうか。いままでの経緯はさておき、とにかく自分がやった跡を残す。そういえば思い出します。森首相が、湯飲み茶碗とともに、パソコンの前に座り「IT革命を推進」とやった時の逸話があります。官僚から「IT」について説明を受けたときに「イットってなんだ」

と聞き返したそうです。その後の経過を見れば、一目瞭然。ITでは、中国に負け、エストニア、北欧国などは、はるかを行っています。日本は、いまやIT後進国です。

儲かれば、お金はいやでも入ってくる

「東京を世界の国際金融の中心地に」と言う言葉も、いまの東京都知事から聞いた覚えがありますが、どうも箱物をつくるか、枠組みをつくるというイメージが湧いてきてしまいます。空っぽの言葉にしか聞こえません。そんなもので、世界のお金が集まるわけがありません。要は投資して、儲かる市場かということに尽きるのです。リターンが高ければ、お金はいやでも入ってきます。

官僚や政治家にだまされずに、バカにするくらいの目線で生きていこう

そのためにはどうするか。官僚や政治家は「自分たちがやらなければ、うまくいかない」「自分がやったという実績づくりのために仕事をする」などと言う習性は捨て、どうしたら、資産運用、金融がのびのびとやりやすくてできるかという面を意識して、国全体の規制緩和、構造改革に、公僕として邁進する必要があります。しかしながら、官僚の気質というものは、明治来、なかなか変わりません。また政治家の質も、ご覧の通りです。いつも言っていますが、われわれ自身が賢くなり、官僚や政治家に振り回されず、あてにせず、バカにするくらいの目線で生きていくのが賢明です。

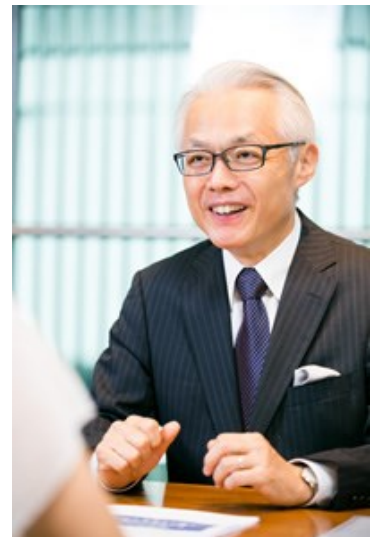
まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者 (RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp